



流通事業DXとカーボンニュートラルの関係①

カーボンニュートラルとDX（デジタルトランスフォーメーション）には非常に密接な関係性があります。今回のテーマは、カーボンニュートラルの話の際に何故、地域事業者はDXが必要になるのか？と言及される理由について解説していきます。

事業活動・企業活動如何によって以下の等式が成り立ちます。

DXで出来る事 ≡ **カーボンニュートラルに向けた企業の取組推進・効率化**

①カーボンニュートラルに向けた流通事業者の取組例

まず建設業・流通事業を取り巻く事業環境を整理していきましょう。流通事業は、メーカー・商社・問屋からの仕入れ・そして顧客への配送・さらに施工付き販売等による建設事業があります。もちろん他にも複数の事業を行っている流通事業者の方も多いかと思います。

下記図では、SDGs等で取り上げる各流通事業者のカーボンニュートラルに向けた取組事例を抜粋しました。

配送・移動にかかる自動車の排気ガス削減・環境配慮商材・働き方改革にも付随する就業時間削減による総合的なエネルギー使用の削減 等々が主なカーボンニュートラルに向けた流通事業者の取組例になります。

カーボンニュートラルに向けた流通事業者の取組例



- 排気ガス削減
- 環境配慮商材
- 材料の利活用
- 就業時間削減
- ペーパーレス
- 再生可能エネルギー
- 設備機器
- 工期短縮
- ZEH普及活動



流通事業者

② DXで出来ることを確認する

今回はDXで出来ること≡可能なことを、検討していきます。DXはデジタルツール等を導入することで事業に変革をもたらすことを意味します。



上記内容については、DXで出来る内容の一端となります。

続いては、カーボンニュートラルに向けた施策とDX実現メリットが重なり得る部分について下図を参照ください。

カーボンニュートラル施策がDXで最適化出来る箇所

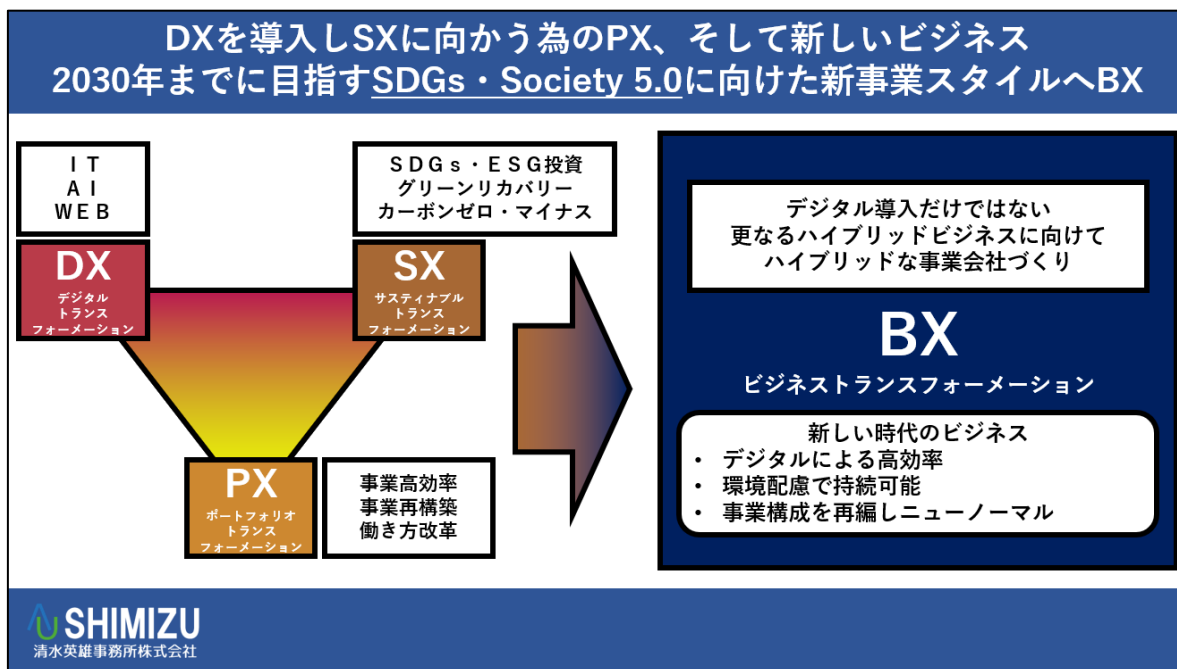
- | | |
|-----------------|---|
| • 排気ガス削減 | →顧客要望による急な配送を辞める
発注期限・配送時間・納材ルール等 |
| • 環境配慮商材 | →誰でも営業出来るようにDXで高効率化
営業人員の削減・余剰人員・時間の確保 |
| • 材料の利活用 | →顧客情報の一元化により可能なケースも有 |
| • 就業時間削減 | →残業なし・高効率化・無駄な業務をなくす |
| • ペーパーレス | →情報取得スピードUPによる効率化に直結 |
| • 再生可能エネルギー設備機器 | →環境配慮商材と同じ |
| • 工期短縮 | →施工期間短縮≡二酸化炭素排出の削減 |
| • ZEH普及活動 | →環境配慮商材と同じ |

ここに挙げられている内容はほんの一端に過ぎませんが、まだまだ、DXで出来る事は多くありそうです。更に次のページでは、DX以外のトランスフォーメーションとも合わせて総合的に、企業の向かうカーボンニュートラル時代の企業形態を解説していきます。

③ カーボンニュートラル時代の企業形態

なぜ？カーボンニュートラルの話にDX？

DXの立ち位置は、カーボンニュートラル時代の企業形態へトランスフォーメーション（変革）を担う要素の1つとされています。カーボンニュートラル時代に適応した会社へ変革（BX：ビジネストラנסフォーメーション）するには、DX・SX・PXが必要とされています。現況、一番日本社会全体で一番遅れているのがDXです。



SX（サステナビリティトランスフォーメーション）は、持続可能な社会に向けた取組です。会社の方向性やビジョン等と連動することが多い項目です。

特にSDGs・ESGで昨今の企業は方針を環境配慮にシフトしてきました。これは世界全体の企業活動と同じベクトルで動いています。

PX（ポートフォリオトランスフォーメーション）は、世界全体ではなく、日本独自の取組になります。特に日本は世界の先進国と比べても就業状況が劣悪であり、改善が必要だと2015年に国連から是正指示が出ています。中でも建設業は、医療と並んで日本国内屈指の就業状況改善が求められる事業分野です。

DX（デジタルトランスフォーメーション）は、活用の仕方によって、これらSXとPXを助け、カーボンニュートラル時代の新しい企業形態へ変革する為にとっても重要な位置づけにあります。

これを進めていかないと、全ては「絵に描いた餅」になってしまいます。

カーボンニュートラルに向けた建設業の対策において、一番必要なことは法規制は当然抑えつつ、DXを推進することかもしれません。

次回：vol.33では、カーボンニュートラル施策がDXで最適化出来る箇所について、もう少し掘り下げて日合商組合員の皆様にとって有益な情報をご提供致します。

住宅業界の最新情報を常に発信

コンサルティング・WEB講演会
ホームページまでお問い合わせください

SHIMIZU HIDEO JIMUSHO

https://au-shimizu.co.jp/seminar_colum